

# 豊西中だより

11月号

吹田市立豊津西中学校  
令和7(2025)年11月6日



荘子の『無用の用』とは？



校長 森田 直樹

11月に入りました。旧暦11月を霜月(しもつき)と呼び、現在では新暦11月の別名としても用いられています。「霜月」は文字通り霜が降る月の意味となっています。10月23日に、山梨県の甲府地方気象台は富士山の初冠雪を発表し、平年より21日遅く、昨年より15日早い観測だったそうです。10月中旬までは夏の地点も多かったのですが、10月下旬には北海道での初雪のニュースが流れるなど、急速に秋の深まりを感じる季節となりました。気温差が大きかったことから、全国的にインフルエンザが流行しています。本校も、インフルエンザによる学級閉鎖が相次いでいます。マスク着用や換気などの対策は取っていますが、なかなか収まる気配はありません。各ご家庭でも引き続き、外出後の手洗いうがいの励行や、換気・服装での体温調節などの健康管理をお願いいたします。

学校生活においては、このような状況下でしたが10月24日に「第51回体育大会」を実施し、今年度の大きな学校行事は無事終わりました。予行も出来ず、ぶっつけ本番でしたが、とてもそうとは思わせない生徒たちのきびきびした動きで、進行に大きな影響も出ず、新記録も出るなど「豊西力」を大いに発信できた体育大会でした。

さて、今年のノーベル賞は、生理学・医学賞で大阪大学の坂口志文特任教授が、化学賞で京都大学の北川進特別教授と日本から二人選ばれました。お二人のインタビューでは、「自分で興味があることを大切にすると新しいものが見えてくる。ずっと続けると気が付いたら面白い境地に達する」(坂口氏)。「(どんな時も)自分の感性を信じること。

(誰もが考えていないことに)チャレンジすること。そして(研究対象に対する)興味が融合して私自身の方向性を変えた」(北川氏)。と話されていました。基礎研究の大切さや強化の必要性は、これまでも多くの日本人受賞者が強調されています。北川氏は、荘子の格言「無用の用」の言葉を使って、「すぐには役に立たないと思われた基礎研究も、やがて社会の役に立つようになった。」と話されていました。即結果を求められる事も多い世の中ですが、「じっくり腰を落ち着けて、基礎から物事に取組む大切さを物語っている。」と感じました。

最後になりましたが、11月にはオープンスクールもありますので、多くの保護者の皆様足運んでいただき、生徒たちの、日頃の学校生活の一面ですが、見ていただければと思います。季節はこれから冬に向かっていきます。特に3年生の皆さんは、これから進路決定に向け大切な時期になります。くれぐれも体調管理に気を付けて、日々を過ごしてください。

# 10月行事報告

## □中間試験



2日・3日に中間試験を実施しました。3年生にとって2学期は、進路にも本格的に向き合う時期です。学習発表会と体育大会の狭間の時期での試験ですが、真剣に取り組んでいました。

## □生徒会能勢ささゆり学園訪問



前期と後期の生徒会執行部合同でSDGsの取り組みの一環として、大阪府の里山「能勢」の学校訪問に行きました。自然豊かで広大な敷地である反面、人口減少の問題など学びの多い訪問でした。

## □全校集会



10月の全校集会は、校長講話・学級委員からの月目標発表、食育キャッチフレーズの伝達表彰を行いました。いつも通り、チャイム前には整列完了し、落ち着いた雰囲気での集会でした。

## □体育大会に向けて(クラス旗制作)



各クラス、放課後クラス旗制作係が残って、予め投票等で決まったデザインを基に、クラスカラーの布地に下絵の輪郭や色塗をしました。どのクラスも凝った作品が多く、見応え充分です。

## □体育大会に向けて(大縄跳び練習)

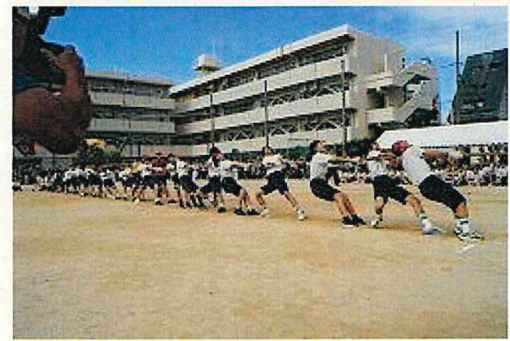


3年生にとって最後の学校行事「体育大会」です。学年種目は「大縄跳び」です。昼食後の昼練習を積み重ね、クラスの息も合ってきました。さあ、当日は何回跳べるかチャレンジ!

## □生徒総会に向けて(後期生徒会委嘱式)



10日に、後期生徒会執行部が発足しました。生徒会日程と全校集会の日程が合わず、委嘱状手交を、校長室にて行いました。いよいよ50期生の出番です。豊西のファーストペンギン頑張れ!



# 第51回体育大会

